



アクセスを拡大し インパクトを創出する

医薬品アクセスプログレスレポート 2022

低中所得国において アクセスを拡大し、 インパクトを創出する

十分な医療を受けられない地域で、タケダの革新的な医薬品やワクチンへのアクセスを拡大させるには、総力を挙げて総合的かつ持続可能な取り組みを進める必要があると私たちは考えています。このレポートでは、低中所得国 (low- and middle-income countries, 以下 LMICs) で医薬品アクセス (Access to Medicines, 以下 AtM) の向上を図るタケダの取り組みをご紹介します。



概要

- 4 社長 CEO からのメッセージ
- 5 医薬品アクセスに関するタケダのビジョン
- 7 医薬品アクセスに対するタケダのアプローチ
- 8 これまでの道のり



進捗

- 10 低中所得国での進捗状況
- 11 持続可能な体制の整備
- 16 費用負担を軽減する革新的なプログラム
- 20 政策立案者との連携
- 23 インパクトを創出するアプローチ
- 25 代表的な取り組み: 革新的な医療アクセスのための設計図 (Blueprint for Innovative Healthcare Access)



現地の声

- 30 患者さんの声
- 32 医師の声
- 34 戦略的パートナーシップ
- 36 パートナーの声
- 38 アクセス向上に取り組む従業員の声



まとめ

- 41 進捗のまとめ



概要

- 4 社長 CEO からのメッセージ
- 5 医薬品アクセスに関するタケダのビジョン
- 7 医薬品アクセスに対するタケダのアプローチ
- 8 これまでの道のり

患者さんを第一に考え 存在意義（パーパス） を追求

医薬品アクセスの向上を図るタケダのアプローチは、研究開発の初期段階から医薬品を上市したその後まで、企業戦略全般に組み込まれています。

社長 CEO からのメッセージ

医薬品アクセスに関するタケダの
ビジョン医薬品アクセスに対するタケダの
アプローチ

これまでの道のり

社長CEOからの メッセージ

この2年間、かつて目の当たりにしたことがないほど、世界中のさまざまな地域や集団において、疾病負担に不均衡が生じてきました。その結果、患者さんは最も必要とする医薬品にアクセスする上で大変な苦勞を強いられています。新型コロナウイルスの感染拡大は、今でも深刻な影響をもたらし、多くの人が日々直面している格差もさらに拡大しています。残念ながら、こうした状況は今に始まったことではありません。危機的な状況では、脆弱なコミュニティほど甚大な被害を受けるものです。

ここ数年の出来事は世界に混乱を招き、医療面のレジリエンスに課題をもたらす一方で、低所得国(LMICs)により深刻な影響を与えてきました。低所得国では医療インフラの制約が増し、革新的な医薬品へのアクセスを拡大するための投資能力に制限が課されました。実際に、20億人もの人々がいまだに必要な医薬品にアクセスできず、疾病負担が最も重い人々の多くが低所得国に集中しています。

タケダは存在意義(パーパス)を体現し、サイエンスに基づくデジタルバイオ医薬品企業として、革新的な医薬品やワクチンを創出し、居住地や経済状態を問わず、あらゆる患者さんにお届けできるよう尽力しています。

そのため、タケダは創薬の初期段階から臨床開発、上市まで、事業のあらゆる局面に医薬品アクセス戦略を組み込んでいます。そして、医療へのアクセスを阻む長期的かつ広範囲な障壁に対処するため、エンドツーエンドのアクセス向上に向けた活動を強く推進しています。

しかし、一企業が力を尽くしても、それどころか世界中のバイオ医薬品業界が力を合わせても、すべての問題を解決することはできません。だからこそ私たちは、患者さんが革新的な医薬品に必要なときにすぐアクセスできる環境を整えるには、現地のパートナーと息の長い確かな信頼関係を築くことが最善の方法だと考えています。これまでの経験から、タケダの有するリソースやノウハウ、現地の知識や現地での関係性を結集して各コミュニティ固有のニーズに対応することが最も効果的な方法であることが明らかになっています。タケダは240年継続する事業を通じて、患者さんやコミュニティ、医療システムのために持続的な価値を生み出すには長期的に取り組む必要があることを学んできました。各所と連携して医療システムを強化すれば、健康増進や予防から、診断、治療、継続的なケアまで、患者さんがたどる過程(ペイシエントジャーニー)を全体的にサポートできます。

この「医薬品アクセスプログレスレポート 2022」では、これまでの進捗状況、構築したパートナーシップ、タケダが低所得国の患者さんにもたらした測定可能な成果に注目しました。

「タケダは革新的な医薬品やワクチンを創出し、居住地や経済状態を問わず、あらゆる患者さんにお届けできるよう尽力しています」

南アフリカにおける希少疾患の治療インフラの支援からベトナムの政策形成イニシアティブまで、疾患の認知度を高め、治療の選択肢を提供する多彩なプログラムについても紹介します。

どのプログラムも、患者さんの生活を改善し、他の地域で再現・応用・拡大できるような知見を生み出すことで、長期にわたる社会的価値に貢献しています。大切なパートナー、つまり国際舞台や現地で活躍するリーダーから直接話を聞きながら、力を合わせて体制を整備し、信頼関係を深めながら医療への障壁を取り除いていくことが最も重要なのです。

私たちの取り組みは今も進行中であり、成功させるには存在意義(パーパス)に即して協力していく必要があります。このレポートをお読みになった皆さんが「世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献する」というタケダの存在意義の実現に向け、ともに歩みを進めていただければ幸いです。



タケダ 2022年統合報告書

クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO



社長 CEO からのメッセージ

医薬品アクセスに関するタケダの
ビジョン医薬品アクセスに対するタケダの
アプローチ

これまでの道のり

医薬品アクセスに関するタケダのビジョン

タケダの Access to Medicines グローバルヘッドからの メッセージ

タケダは一企業として、自社の革新的な医薬品やワクチンをあらゆる地域、あらゆる経済状態の患者さんにお届けできるよう尽力しています。

低中所得国における AtM 対策の中心となるのは、患者アクセスを阻む障壁に対処するエンドツーエンドのアプローチです。

タケダは医薬品アクセスを向上させるためにグローバルな取り組みを展開していますが、リソースの乏しい国ではアクセスを阻む障壁が多く、複雑であることも認識しています。そこで、低中所得国や医療システムが発展途上段階にある国々では、アンメットメディカルニーズが存在する分野のアクセス向上対策に重点を置いています。

本レポートでは、タケダの取り組みに加えて、2020 年の前回レポート以降の最新の進捗状況も紹介します。

低中所得国や医療体制が発展途上段階にある国々でアクセスを阻む障壁に効果的に対処し、持続可能なインパクトのある医薬品アクセスを確保するためには、患者さんを第一に考えた包括的かつ協働的な取り組みが必要であると私たちは考えています。この取り組みを進めるにあたっては、アクセスの拡大を優先し、パートナーシップを通じて社会的価値を高め、総合的なビジネスアプローチを取っています。本レポートでは、持続可能な体制の整備、費用負担を軽減する革新的なプログラムの構築、政策立案者との連携によって有意義な変革を推進する主な取り組みに焦点を当てます。



Takeda AtM progress report 2020



社長 CEO からのメッセージ

医薬品アクセスに関するタケダの
ビジョン医薬品アクセスに対するタケダの
アプローチ

これまでの道のり

医療体制は地域によって違いがあり、直面する課題も異なります。タケダのアプローチを地域化し、世界中の患者さんや医療体制の進化するニーズに効果的に対応するには、パートナーの助けが必要です。現地の知識やノウハウを持つ信頼できる組織とのパートナーシップがあるからこそ、真の組織的な変化を起こすためのサポートができます。

私たちがもたらす成果の測定は容易ではありませんが、今後もエコシステム全体で適切な対策を取り、より良い成果を挙げるためには不可欠です。そこで私たちは、デューク大学、マッキンゼー・アンド・カンパニーと世界経済フォーラムが設立した非営利団体 Innovations in Healthcare (IiH) と共同で「Access to Health Impact Framework Guidebook」を開発しました。これは、医薬品アクセスの向上を図る取り組みが患者さんや医療体制に与えるインパクトを一貫した方法で測定するためのツールキットです。

この測定フレームワークは、ケニアにおけるタケダの代表的な取り組み「革新的な医療アクセスのための設計図(Blueprint for Innovative Healthcare Access)」で試験的に運用され、成功を収めました。継続的な進捗を追跡し関与することを通じて現地でプログラムを通じた成果をレベルアップしながら、地元の関係者が長期的なインパクトをもたらす取り組みを自主的に推進できる仕組みを整えてきたのです。

私たちは、このフレームワークをタケダのプログラム全般に深く浸透させ、製薬業界全体のリソースとして共有したいと考えています。

本レポートの対象期間中に、タケダの Access to Medicines オフィスは「センター・オブ・エクセレンス」モデルに進化し、総合的なアプローチをさらに強化して全社的に組み込んできました。これにより、会社の総力を挙げて、最も重要な地域でより大きなインパクトを実現できるようになります。

タケダのビジネスが人々の生活において最も重要なもの、すなわち「健康」に影響を与える以上、私たちはいついかなるときも高い倫理に沿って行動する責務があります。この考え方は「世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献する」というタケダの存在意義(パーパス)にも表れています。私たちはタケダイズムの価値観(誠実:公正、正直、不屈)を通じて、行動指針の順番に従い、あらゆる取り組みで患者さんに寄り添い、人々との信頼関係を築き、社会的評価を向上させ、事業を発展させていきます。

本レポートで取り上げた取り組みに貢献していただいた皆さん、さらに患者アクセスの向上に尽力していただいた皆さんに心より御礼申し上げます。これまでの実績、現在進行中の取り組み、そして今後の展望をご覧いただければ幸いです。

Michelle Erwee

Access to Medicines グローバルヘッド

あらゆる事業に組み込まれた医薬品アクセスへの取り組み

タケダでは、会社全体で責任を共有し、全員が明確な当事者意識を持つことで、全社一丸となってインパクトの向上を図っています。ここでは、医薬品アクセスへの取り組みを優先事項として事業全般に組み込むための主な方法を紹介합니다。

総合的な
事業戦略

- 医薬品アクセスへの取り組みをタケダの戦略に盛り込み、患者さんに対するタケダの取り組みの1つとして会社やタケダエグゼクティブチームの目標に反映

医薬品アクセス
に関する
インセンティブ

- 部門責任者や国・地域の統括者に医薬品アクセスへの取り組みを奨励するため、金銭的・非金銭的報酬を整備



明確な責任

- CEO、タケダエグゼクティブチーム、取締役会がタケダの医薬品アクセス (AtM) 戦略を精査・承認
- AtM 委員会が戦略的ガイダンスを提供し、アクセスエクセレンス委員会が医薬品アクセスに関する計画と測定基準を監視・評価



透明性

- 医薬品アクセスのコミットメントと測定可能な目標を一般公開
- 医薬品アクセスの向上を目指すタケダの活動成果を、プログレスレポートや統合報告書等を通じて一元的に共有

堅牢な倫理と
コンプライアンス

- 第三者との連携を含めた事業全般の腐敗リスクを低減するため、不正行為や各国固有のリスクの評価・監査を踏まえた全社的な倫理・コンプライアンス管理体制を整備

社長 CEO からのメッセージ

医薬品アクセスに関するタケダの
ビジョン医薬品アクセスに対するタケダの
アプローチ

これまでの道のり

医薬品アクセスに対する タケダのアプローチ

医薬品は、それを届ける仕組みがあってこそ意味があります。私たちは、現地の医療制度固有のニーズに対処するため、患者さんがたどる全過程の医療インフラや医療体制を把握し、国際的なノウハウを取り入れています。

医薬品アクセスの基本理念

患者さん第一

私たちは、患者さん一人一人の状況やニーズに合わせて、最も必要なときに最も必要な場所で医薬品やワクチンへのアクセスを提供しようと努めています。

総合的なアプローチ

私たちは、疾患啓発から費用負担の軽減、治療、継続的な患者サポートまで、患者さんがたどる全過程でアクセスを阻む障壁に対処します。

連携した活動

私たちは、多様なパートナーシップ、情報共有、そしてエコシステム全般のソリューション共創を通じて、持続可能な医療体制を構築・支援します。

患者さんのニーズに応える「エンドツーエンド」のアプローチ

	啓発	検診	診断	治療	アフターケア
障壁	疾患、症状、治療法の認知度不足	特定の疾患を発見する検診の不足	診断技術や機器に関するトレーニングの不足	医療上必要な治療を受けるためのリソースの不足	治療後のアフターケアの不足
活動	疾患の啓発と予防、早期発見と治療、誤った情報への対処を推進するためのプログラムやキャンペーンを展開	疾患別の縦割り対策を打破し、タイムリーな診断フォローアップを支援するために、総合的な集団検診をサポート	早期診断を促し、他の医療機関への紹介を迅速に行えるように、かかりつけ医や看護師、臨床専門医、地域ボランティアのトレーニングを実施	革新的な治療を阻む費用負担の障壁に対処するため、段階的な価格設定や患者支援プログラム(PAP) ¹ 、組織的な寄付の取り組み等のメカニズムを整備	地元の患者支援団体や医療従事者、NGOの能力を活用することで、患者さんと介護者の継続的な支援体制を確保

¹ 患者支援プログラム(PAP)とは、革新的かつ協働的な資金調達モデルを通じて、医薬品の費用負担を軽減し、治療へのアクセスを向上させるタケダの取り組みです。

社長 CEO からのメッセージ

医薬品アクセスに関するタケダの
ビジョン医薬品アクセスに対するタケダの
アプローチ

これまでの道のり

これまでの道のり

タケダは 240 年以上の歴史を通して「患者さんを第一に考える」という企業理念を発展させ、居住地や経済状態を問わず、必要とする人々に革新的な医薬品を届けるための取り組みを進めてきました。

2018 年に最初の医薬品アクセスプログレスレポートを公表し、これまでの取り組みで得た主な知見や実績を紹介しました。2022 年の本レポートでは、その後の進捗状況とインパクトを説明し、全ステークホルダーのために医薬品アクセスを長期的に促進するタケダのコミットメントを具体的に紹介します。



2016~2018



2018~2020



2020~2022

医薬品アクセスへの取り組み

- 2018 年の Access to Medicine Index で第 5 位にランクイン

ACCESS TO MEDICINE INDEX

- 20 の患者支援プログラム (PAP) を通じて、14 の国と地域で 700 人近くの患者さんの治療をサポート

- 医薬品アクセスの研究開発プロジェクトを立ち上げて、20 の戦略的パートナーシップと 50 の科学技術力構築イニシアティブを実現し、低中所得国の医薬品アクセス向上を支援
- 110 万人超の患者さんを対象に、がん、高血圧症、糖尿病の検診を実施

Takeda AtM progress report 2018

連携を促進してインパクトを拡大

- 2021 年の Access to Medicine Index では第 6 位、Governance of Access (医薬品アクセスに対するガバナンス) の部門では首位を獲得。研究開発体制構築の領域でも業界のリーダーとして認められ、Index 全体のスコアが上昇

ACCESS TO MEDICINE INDEX

- 2017 年以来、PAP を通じて 15 の国と地域で 5,500 人以上の患者さんを支援

- ケニアでは、Blueprint for Innovative Healthcare Access という取り組みを試行。メル県でのパイロット成功を足掛かりに、地元体制を強化し、医療ニーズに対応
- 低中所得国で研究開発力構築プログラムを拡大し、がんやメンタルヘルスを含む非感染性疾患 (NCDs) の検診、診断、治療の向上を支援

Takeda AtM progress report 2020

低中所得国の患者さんの医薬品アクセスを向上

- Blueprint for Innovative Healthcare Access をアフリカの他の 4 カ国にも展開
- 資力調査に基づいた PAP を 18 の国と地域に展開し、2017 年以来 5,700 人超の患者さんを支援
- グローバルなベストプラクティスと地域に根ざしたアプローチを融合させ、タケダとそのグローバルコミュニティ全体で健康の公平性をさらに向上させるため、タケダ・ヘルスエクイティ&ペイシェント・アフェアーズを設立

- 希少疾患や複雑な疾患を対象とした持続可能な医薬品アクセスの枠組みを模索
- 「Access to Health Impact Framework Guidebook」を通じて、インパクトと社会的価値を測定するための体系的なアプローチを整備
- 非感染性疾患の外科的治療に重点を置き、価値に基づく医療モデルへの投資を UNITAR (国連訓練調査研究所) と共同で実施



進捗

- 10 低中所得国での進捗状況
- 11 持続可能な体制の整備
- 16 費用負担を軽減する革新的なプログラム
- 20 政策立案者との連携
- 23 インパクトを創出するアプローチ
- 25 代表的な取り組み: 革新的な医療アクセスのための設計図 (Blueprint for Innovative Healthcare Access)

総合的なアプローチ 革新的なアクセス

私たちは、低中所得国で費用負担を軽減する先駆的なプログラムに重点を置きながら、政策立案者と連携してタケダの革新的な医薬品へのアクセスを持続可能な方法で拡大し、包括的なアプローチを展開しています。

低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

低中所得国での 進捗状況

48 の低中↓
所得国²

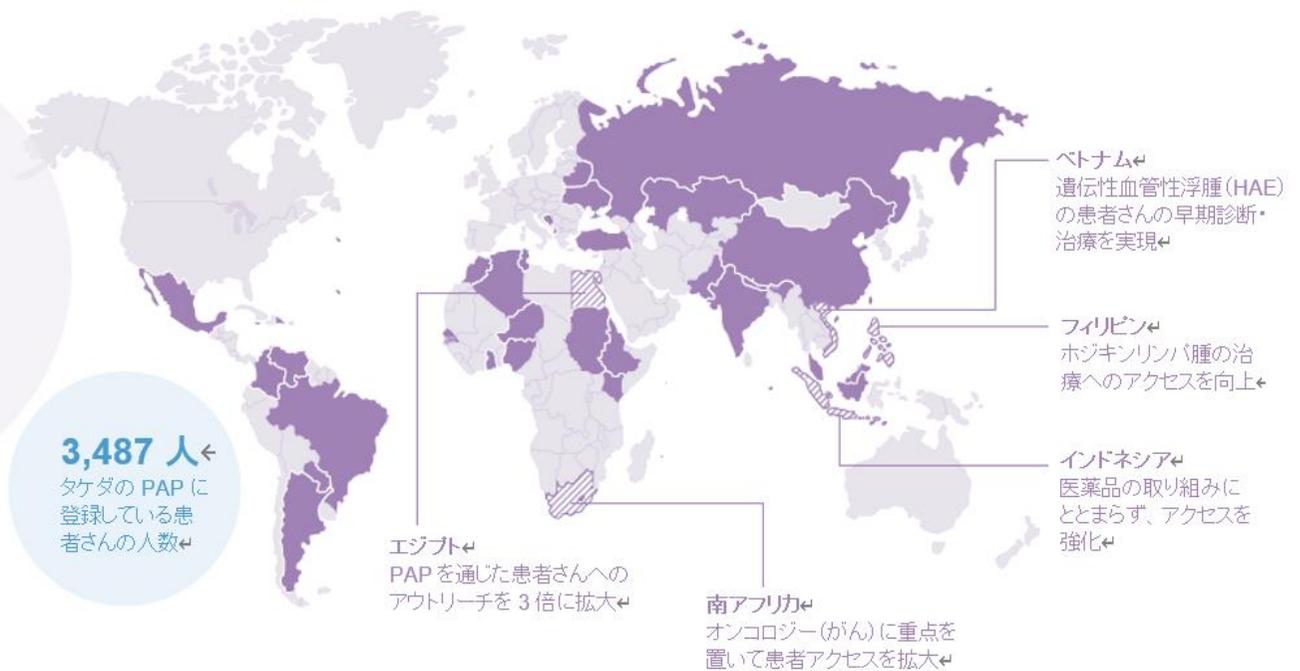
タケダが医薬品アクセ
スの向上を推進して
いる国の数

対象国³

3,487 人

タケダの PAP に
登録している患
者さんの人数

2020年7月～2022年3月の進捗状況⁴
(サハラ以南のアフリカのプロジェクトの場合)



医療体制を強化

2,000 台以上

の医療機器や機材等を提供

1,000 件以上

の研究プロジェクトや治験に
よって地域の健康格差に
対処

患者アクセスを拡大

188,782 人

の患者さんが検診を受診

16,432 人

の患者さんを診断

人材強化

4,459 人

の医療従事者が
トレーニングを受講

1,796 人

の地域医療ボランティアがト
レーニングを受講

² 2022 年現在

³ 医療体制が発展途上段階にある国々を「対象国」に指定することで、医療体制を強化するための積極的な投資に重点を置いた事業戦略を推進

⁴ タケダの社内データより

低所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的なプログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出するアプローチ

代表的な取り組み

持続可能な体制の整備

アプローチ

世界には医薬品にアクセスできない人々が 20 億人近くいますが⁵、医薬品を提供するだけでは十分ではありません。医薬品アクセスの障壁の多くは、患者さんにとって必要なサービスの提供を困難にしている医療制度・体制に内在しています。

持続可能な体制を整備するには、長期的な視点で考える必要があります。タケダの医薬品がいつ、どこで必要とされているかを把握するだけでなく、患者さんに医薬品を届けるために解決すべき大きな課題があることも認識しなければなりません。

これは自社だけで解決できる課題ではないため、私たちは政府や現地の保健医療当局、地元のボランティア、NGO、業界のパートナー、そして患者さん自身との協力体制を整え、連携を進めています。

それによって、患者さんの生活や治療法を改善するためのプログラムを構築し、実施することができます。私たちは関係する機関と連携しながら、医薬品のみならず、患者さんに必要なケアも提供します。そのために、診断能力の向上、コミュニティへの疾患に関する啓発、検診の実施、医療従事者のトレーニング、必要な機器の確保などを進めています。

⁵ 世界保健機関：公衆衛生における 10 年 2007-2017



低所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的なプログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出するアプローチ

代表的な取り組み

主な取り組みの例

遠隔地を理由に人命が失われない世界へ

「コミュニティ・ヘルス・ワーカーの育成～遠隔地を理由に人命が失われない世界へ～」のグローバル CSR パートナーであるラスト・マイル・ヘルスとタケダは、「医師のいない遠隔地に住んでいることを理由に人命が失われてはならない」という信念を共有しています。

2018年にリベリアで発足した同プログラムは、十分な医療が受けられない遠隔地の医療体制を強化する上で助けになります。

そのために地元の人々を募集し、身近な人々の命を救うための救命技能トレーニングを現地で実施しています。

リベリアでの成功を受けて、この取り組みをマラウイ、エチオピア、シエラレオネ、ウガンダといったサハラ以南のアフリカ諸国にも拡大することになりました。

 [プログラムの詳細はこちら](#)

インパクト

2018～2022

他の主な資金提供者との連携

3,934 人

のコミュニティ・ヘルス・ワーカーを教育・配置

37,637 人

の医療システムリーダーがデジタルトレーニングプログラムを受講

3,230 万 米ドル

の追加財源を調達



130 万回

の治療をマラリア、肺炎、下痢を患う5歳未満の子どもに提供



低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的なプログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出するアプローチ

代表的な取り組み

Healthy Village: 地域社会に医療を提供し、コミュニティの力を強化することで命を守る

母子保健は、コミュニティの生理的・経済的な健康状態を判断・予測する上で重要な要素です。このプログラムは、母子の予防可能な死を減らすことで「健康な村」の実現を目指します。

Healthy Village では、ネパール、バングラデシュ、インド、アフガニスタンの農村部を中心に、現地の医療機関やコミュニティ・ヘルス・ワーカーを対象とした母子保健のトレーニングと、保健医療施設の建設・改修を通じた物理的インフラの整備をグローバル CSR パートナーのワールド・ビジョンと共同で進めています。

 [プログラムの詳細はこちら](#)

タケダにおける研究開発力の構築を支援するプログラム: 低中所得国におけるがんの研究と医療提供

タケダがケニアで展開している研究開発力を構築するプログラムは、サハラ以南のアフリカでがんの罹患率上昇と課題の増大に対処することを目的としています。

2020年6月から2022年5月まで、ケニアの非営利団体 International Cancer Institute と連携し、データの管理や分析、研究成果の論文文化を通じて、同団体の科学研究能力の強化を支援しました。

インパクト

2016~2022

2022年10月に終了する6年間のプログラム終了までの見通し

2,000人以上
の医療従事者



を対象にトレーニングを実施し
50万人近くの人々(子どもを含む)に保健の
知識やサービスを提供



が産後1時間で母乳育児を早期に開始(インド、ネパール、バングラデシュの平均は34%)。この成果を支えているのは、プロジェクトのトレーニングを受けたヘルスワーカーやボランティア。こうした女性たちの知識や経験は今後もコミュニティに利益をもたらすでしょう。

低体重児の割合

↓ 20%
インド

↓ 約 8%
バングラデシュと
ネパール

インパクト

2020~2022

**医薬品情報の集約**

56種類の一般的な抗がん剤の医薬品情報を薬局向けに整備

**一般的な副作用に関する31の説明書**

を患者さん向けに作成



化学療法の安全な取り扱いのために、薬局向けの標準作業手順書(SOP)を7種類作成

低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

**健康の公平性を支えるグローバルな
ネットワーク**

2020年に発足したタケダ・ヘルスエクイティ&ペイシエント・アフェアーズを通じて、患者さんやコミュニティ、官民団体など多様なパートナーのグローバルネットワークと連携しています。地域社会における健康格差が持続的に特定・対処されるよう、パートナーと共にサポートし、患者さんがたどる全過程でケアの向上を図ります。

現在、同センターのグローバルなネットワークは37カ国に広がり、現地で活動するリーダーは150人以上、国内外のNGOパートナーは20団体にのぼります。同センターの活動を足掛かりに、地域社会で信頼関係を築き、タケダと世界中の対象コミュニティが健康の公平性を実現するために必要な人員、場所、資源の物理的・知的ネットワークの強化を進めています。

インパクト

2020~2022

1,600人以上

の現地の臨床医、看護師、治験責任医師、研究者、医療従事者が

37カ国

で疾患の啓発、診断・治療法、疫学、データ管理、基礎研究、健康の公平性に関する研究、治験に関するトレーニングを受講

現地の医療能力の強化によって20,000人以上の患者さんの

検診、診断、治療を向上

**1,000件超**

の研究プロジェクトや治験によって、地域の健康格差やコミュニティに影響を及ぼす疾患に対処

200人以上のタケダの専門家

が健康の公平性に関する能力構築プロジェクトを通じて、現地のパートナーと知識やスキルを共有



低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的なプログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出するアプローチ

代表的な取り組み

スポットライト

南アフリカにおける希少疾患インフラを支援し、患者さんの生活を改善

南アフリカには、希少疾患の患者が 400 万人以上います⁶。これは 15 人につき 1 人の割合です。また、5 万人に 1 人が遺伝性血管性浮腫 (HAE) という深刻な疾患に苦しんでいます。南アフリカでは、誤った情報や文化的偏見、誤診などが原因で、診断率が世界の平均を下回っています。

南アフリカにおけるタケダの HAE プログラムでは、希少疾患の診断に関するアンメットニーズに対応するため、現地の科学技術の専門的な知識を深める育成・トレーニングに重点を置いています。この取り組みの一環として、専門家や医療従事者、患者さん、患者団体で構成される機能的なネットワークを構築し、希少疾患をめぐる南アフリカの状況を改善するためのハイレベルな議論を促すことで、HAE コミュニティの強化も進めています。

HAE International の南アフリカ支部や ACARE とのパートナーシップを通じて、認知度を向上するためのデジタル啓発プラットフォームを立ち上げ、サポートが必要な方向けの専用ホットラインも設置しました。

南アフリカにおける HAE プロジェクトの成功が追い風となって、炎症性腸疾患と原発性免疫不全症に取り組むためのトレーニング・啓発プログラムも展開しています。

「医薬品にとどまらず、医療体制全般を強化する必要があります。複雑になりすぎたシステムを打開し、アクセス障壁に対処するために、適切なパートナーと共に解決策を講じます。そして現地のニーズに合わせてタケダの戦略を活用し、インフラの地域格差をプロセスに反映させることが重要です。万能なアプローチはなく、薬局などを含むエコシステムの構築と対話により、関わりを深めていく必要があります」

Ursula Myles

南アフリカ、アクセスマーケット担当ゼネラルマネージャー

⁶ 出典: Illumina: “Rare is Everywhere”: Embracing Rare Disease in South Africa



低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

費用負担を軽減する 革新的なプログラム

アプローチ

発展途上国でも先進国でも、重病の治療費は患者さんとその家族にとって多大な経済的負担となることがあります。

低中所得国や医療体制が発展途上にある国、民間健康保険や公的健康保険制度が整備されていない国の人々にとっては、自己負担費用が高額になり、生命を救う医薬品に手が届かないことも珍しくありません。

患者さん第一の姿勢を貫くタケダは、このギャップに対処するためにさまざまな革新的アプローチを採用しています。例としては、国の所得水準等の要素に応じて金額を調整する「段階的な価格設定」、保険者と医療提供者のニーズに応じて不安要素を軽減する「価値に基づく価格設定」、経済的に余裕のない患者さんがタケダの革新的治療薬を入手できるようにする PAP などがあります。

特定の治療領域における医薬品アクセスを重視

費用負担を軽減するタケダの革新的なプログラムは、患者さんを第一に考えるというタケダの価値観を反映し、医療体制を支援することで、低中所得国にとって最も緊急性の高い治療領域でタケダの革新的な医薬品に広範かつタイムリーにアクセスできるようにしています。



希少疾患



消化器系疾患



オンコロジー（がん）

血漿分画製剤
(PDT)

低所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

主な取り組みの例

段階的な価格設定

タケダでは、医薬品アクセスを拡大するために、段階的な価格設定モデルを採用しています。

国の分類に応じて価格帯を変えることで、医薬品の価格をグローバルに調整できます。

国内総生産(GDP)や医療制度の成熟度、自己負担額、予防接種や希少疾患の治療に関する政策などの要素に基づき、国を分類しています。

これによって、可能な限り多くの患者さんがタケダの革新的な医薬品にアクセスできるよう取り組んでいます。

患者支援プログラム(PAP)

国別の段階的な価格設定では、国の経済状況や医療制度の成熟度に応じた調整が可能ですが、負担できる費用は個人によって大きく異なります。医薬品を確実に届けるには、患者さんの支払い能力を見極めたケースバイケースのアプローチが必要です。

タケダの PAP では、革新的な Patient Financial Eligibility Tool によって患者さん一人一人の経済状態を考慮し、現地の医療制度を踏まえて、個々のニーズに応じて治療費を負担します。資金を提供するパートナーと協力し、対象となる患者さんにはフレキシブルな支払いスケジュールや補助金も用意します。

低所得国におけるタケダの AtM アプローチの柱となる PAP では、治療費を全額支払えない患者さんでも、医師の処方に基づく薬物治療を最後まで受け、最大限の治療効果を得ることができます。

2017年に発足したタケダの PAP は、より多くのコミュニティで患者さん一人一人をサポートし、より多くの革新的な医薬品を取り入れ、より効果的な方法で患者さんの長期的なアクセスを実現するために、拡大と進化を続けてきました。タケダは PAP を通じて目の前の経済的な障壁やアンメットニーズに対処しながら、保険者や各機関と引き続き連携し、より広範で持続可能なアクセスを実現するための政策立案を支援していきます。

インパクト

2020~2022

患者アクセスが 最大 15% 向上

タケダの総合的な医薬品アクセス戦略の一環として PAP を導入した国々での実績

3,487 人の患者さん

PAP の支援を受けている希少疾患や複雑な疾患の患者さんの人数

PAP の対象となる製品数

11 製品

 [プログラムの詳細はこちら](#)



低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

スポットライト

PAP パートナーシップを促進し、フィリピンにおけるリンパ腫治療を再考

フィリピンでは、早期に適切な診断ができないため、希少疾患患者の多くが必要な医薬品にアクセスできません。

例えば、同国で特に患者数の多い14種類のがんの1つであるホジキンリンパ腫の患者さんは、さまざまな医療従事者を平均5~10回も訪ねてようやく診断がつくため、重要な治療が遅れることがあります。

より稀な病型を発見するために必要なCD30リンパ腫の検査については、これまで所定の検査手順が整備されていませんでした。

しかも、フィリピンでは通常、外来診察は自費診療となるため、経済的な障壁もあります。

そこでタケダはフィリピンがん学会と緊密に連携して、CD30検査を必要とする患者さんへの支援と費用負担を行い、2021年2月~12月には24の病院で62名の患者さんが検査を受けることができました。

また、タケダの革新的な Patient Financial Eligibility Tool を活用して、PAPの対象となる患者さん一人一人の経済状態を正確に把握することも、患者さんごとに必要なサポートを見極めて治療への道を開くための鍵となります。

そうすれば、患者さんがたどる過程の初期段階から、個々のニーズに応じた治療とケアを提供できます。

例えば、患者さんが治療費を全額支払えなくても、医師が処方した間隔で薬物治療を最後まで受けられる柔軟な仕組みがあれば、治療による最大限の効果を得ることができます。このように治療費を持続可能な方法で公平に配分できれば、個々の患者さんが重要な治療を受けられるようになります。

2017年以降の実績:

- 300人を超えるフィリピンの患者さんが、PAPによって、ホジキンリンパ腫の治療を最後まで受けることができました。
- 登録した患者さんの53%は、最大16サイクルの治療を最後まで受けています。
- フィリピンにおけるタケダのPAPは、113の病院、197人の医師と連携し、440人の患者さんを医療機関に紹介しました(そのうち346人がプログラムに登録)。



低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

医療機関を取り巻く状況を再考し、コミュニティを動かしてエンドツーエンドの患者ケアにおけるギャップを改善

包括的なケアを長期的に提供するには、治療費の支援以外にもさまざまな取り組みが必要です。医療体制の負担が大きい場合でも（むしろそのような場合こそ）地元のエコシステムにおけるギャップを埋め、診療所や病院の枠を超えて引き続き適切な患者ケアが受けられるようなコミュニティの体制を整備しなければなりません。

新型コロナウイルスの感染拡大の期間中、多くの病院や診療所が多大な影響を受け、通常の予約や治療が中断されました。また、多くの患者さんや介護者が仕事と安定した収入を失い、治療費の捻出に苦労しました。

適切な医薬品がおおむね入手できる状態であるにもかかわらず、適切な治療を受けられなかった患者さんも少なくありません。

フィリピンのコミュニティ隔離が始まって数カ月間に、タケダはパートナーや医師と協力して医薬品の投与を継続できる体制を整え、治療中の患者さんに必要な量が届くようにしました。さらに、患者さんや医療従事者、コミュニティ全体を対象とした啓発リソースとしてデジタルプラットフォームの利用を推進することで、新型コロナウイルス感染拡大の期間中における患者さんの状況や治療法についての認識を高め、診断から患者ケアまで多岐にわたって現場向けの重要なトレーニングや技能研修を継続的に実施しました。

フィリピン病理学会と共同で「リンパ腫診断の能力構築」と題した病理学ワークショップシリーズを開催

年	参加者数
2019	392人
2020	700人以上
2021	800人以上
合計	1,700人以上

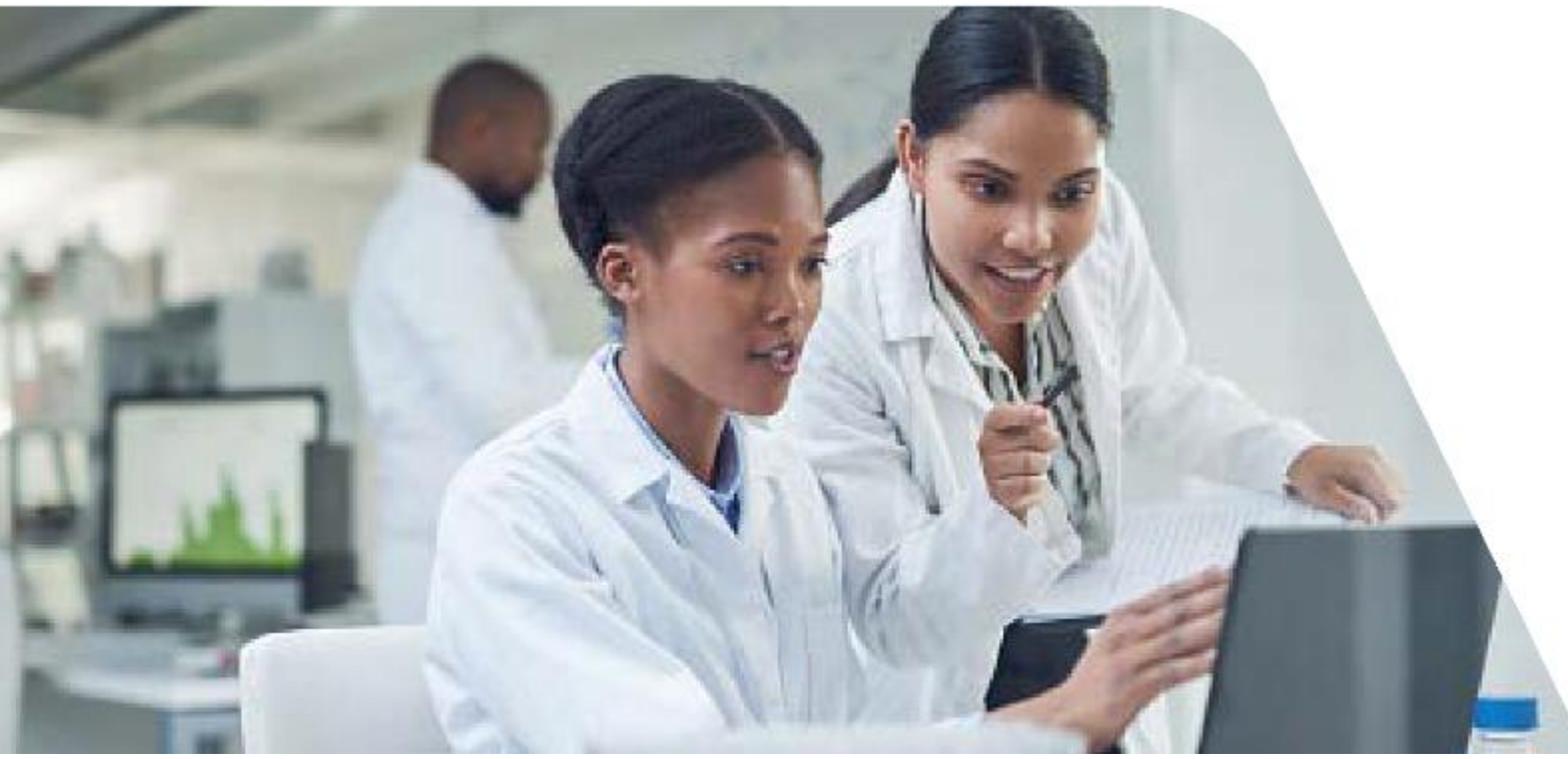
タケダが後援する UPMAS 啓発シリーズ「血液がんへの関心を高める」

年	参加者数
2019	624人
2020	983人
2021	1,593人
合計	3,200人

「新型コロナウイルスの感染拡大の期間中は、患者さんは病院に入るための PCR 検査を受けることができず、治療プログラムにアクセスできませんでした。私たちと共にこの難局に取り組み、個別のソリューションを促進するタケダの姿勢は本当に素晴らしいものでした。患者さんのために絶えずイノベーションを追求したいという共通の思いが、長年にわたる私たちのパートナーシップを支えています」

Roshel Jayasundera

Axios International
グローバルコンサルティング担当シニアディレクター



低所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的なプログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出するアプローチ

代表的な取り組み

各国の政策立案者との連携

アプローチ

持続可能な医薬品アクセスモデルを構築するには、各国政府や政策立案者との連携が不可欠です。

私たちは政策立案者との継続的な対話を通じて、医薬品アクセスの改善を促進する患者さん中心の医療制度・体制の開発を支援しています。また、サービスを提供する地域社会が直面する課題に取り組む機会を見出し、その国・地域の政策立案者と緊密に連携しながら、希少疾患や複雑な疾患の管理に役立つ患者さん中心の活動を展開しています。

政府や地域の政策立案者は、それぞれの医療市場が抱える課題を誰よりもよく理解しています。私たちは彼らと緊密に連携しながら、タケダのグローバルな知見とパートナーシップを活用した解決策を提供し、さまざまな取り組みから学んだことを活かして医療体制の強化を支援します。



低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的なプログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出するアプローチ

代表的な取り組み

主な取り組みの例

国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・インド(UN-GCNI)とのパートナーシップ

2021年11月、インドにおいてUN-GCNIと共に希少疾患の患者さんの早期の治療へのアクセスを向上させることを目的とした環境整備の国家的イニシアチブを開始しました。この取り組みでは官民のステークホルダーが力を合わせて、6カ月間の集中的な取り組みを実施するもので、希少疾患治療の資金援助を促進・支援し、インドの希少疾患政策で定められた既存のクラウドファンディングの仕組みや手段を強化しました。



これによりインドの省庁 (the Ministry of Corporate Affairs, Department of Public Enterprises and the Ministry of Health and Family Welfare) が定めた政府の政策やガイドラインに沿って、希少疾患の資金援助要件に対応するロードマップが作成されたことは、主な成果のひとつに挙げられます。

国連訓練調査研究所(UNITAR)と連携して、価値に基づく医療(VBHC)を推進

世界中の50億人もの人々が、多くの非感染性疾病(NCD)の治療に欠かせない外科治療を受けることができていません。⁷

タケダは、乳がんをはじめとする非感染性疾病の治療(外科治療を含む)へのアクセスを向上させるため、価値に基づく医療(バリューベース・ヘルスケア、略してVBHC)を支援しています。VBHCは従来のサービス提供に応じた報酬の支払モデルとは異なり、医療従事者が提供したサービス量ではなく、サービスの質に基づいて報酬を受け取る仕組みです。

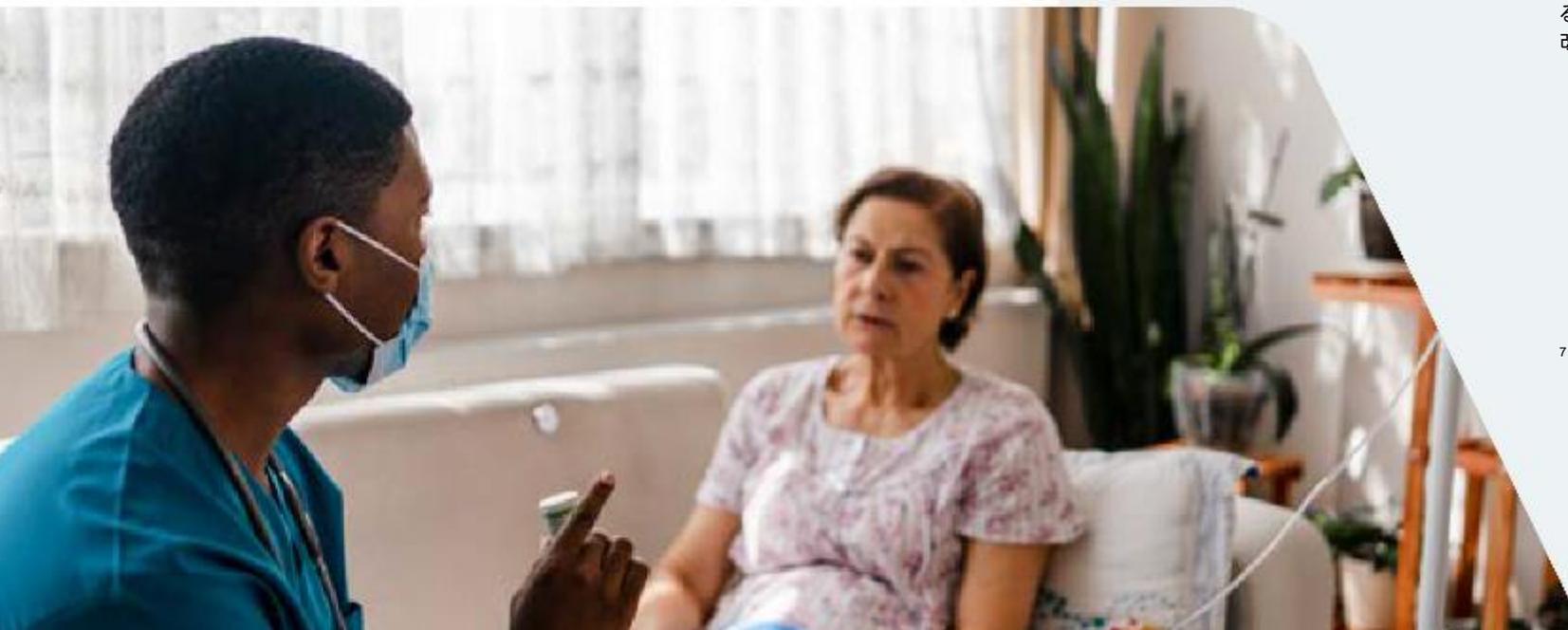


私たちはUNITARと連携し、非感染性疾病に重点を置いて、低所得者層向けの「価値に基づく医療(VBHC)」モデルに投資してきました。両者が力を合わせて、実績に裏打ちされた費用対効果の高い戦略を取り入れ、ルワンダ、トルコ、南アフリカの3カ国で医療体制の課題に取り組んでいます。

このプロジェクトの第一段階で目指したことは、保健医療を管轄する各国の省庁やアカデミア、市民社会、産業界、患者さんとの緊密な協力体制のもとで、ステークホルダーが集まるプラットフォームを整備し、現地の状況に応じたVBHCモデルの開発方法を議論することでした。

タケダはこの政策形成プラットフォームを通じて、価値に基づく医療に関する知識の蓄積を支援することで、体制を強化し、患者さんの健康状態を改善させることができました。

⁷ 出典: The Global Surgery Foundation: Official Launch of the New VBHC Hub



低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

スポットライト

ベトナムの事例

2021年に、ベトナム ホーチミン市のタケダチームは、患者さんの医療へのアクセスを拡大するために、地元当局と対話を重ねました。

現地のパートナーと協力して社外の体制を整え、さまざまな取り組みを通じて患者さんのアドボカシー活動に携わりました。ベトナム保健省と交わした希少疾患に関する Memorandum of Understanding (覚書)の範囲を拡大する上で重要な役割を果たし、覚書に参加するパートナーの数を増やしました。また、希少疾患に関するガイドラインの策定をサポートし、年2回の協議会開催を通じて、今後の法整備に向けて積極的な関与を続けています。

ホーチミン市のタケダチームは、遺伝性血管性浮腫 (HAE)の患者さんのために、疾患の認知度向上と診断・治療へのアクセス改善にも取り組んでいます。現地のキーオピニオンリーダーとのオンライン会議、ミーティング、トレーニング、シンポジウムを開催し、ホーチミン市の喘息・アレルギー・臨床免疫学会のウェブサイト内に HAE ポータルを開設しました。

また、アンメットニーズが存在する分野では、適切かつ責任ある医薬品の使用をできるだけ早く実現するために、政策立案者とも連携しています。

さらに2021年には、現地当局と共同で、資力調査に基づいた画期的な患者支援プログラム (PAP) をベトナムで実現することもできました。これは、患者さんの医療へのアクセスをさらに向上するための重要な節目となります。

また、ベトナムの政策立案者と連携しながら、基盤強化を目的とした、体制の整備や費用負担を軽減するアフォーダブル・アクセス・プログラムの整備を組み合わせることで、政府や医学界において希少疾患に関する議論を促進することに貢献しています。

これらの取り組みにより、HAEなどの希少疾患を抱える患者さんの生活により良い変化をもたらす治療にアクセスしやすくなります。

「私は2015年にがんの診断を受けましたが、幸いにも適切な診断と効果的な治療のおかげで、この病気を克服することができました。今は健康的な生活を楽しみながら、第二子の出産を控えており、がん患者だったことを忘れてしまうこともありません。

しかし、すべての患者さんが私のように幸運なわけではありません。誤診されたり、タイムリーな治療が受けられなかったりする人もいます。だからこそ、医薬品への早期アクセスが不可欠です。

私たちはまだ若いチームですが、複雑な疾患や希少疾患に対する患者さんの認識を高め、新たな希望を与え、継続的に患者さんをサポートする上ですでに重要な成果を挙げています。これからも日々努力を重ね、できるだけ多くの患者さんが医薬品や革新的な治療にアクセスできるよう支援していきます」

Quynh Hoang
Takeda Vietnam
シニア・ヒューマン・リソース・マネジャー



低所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

インパクトを創出する アプローチ

継続的に好ましいインパクトを生み出す、ということは、単に良いアイデアを実行することではなく、同様に、影響の度合いを測ることは、単に実行すべきことを書き出した TODO リストを埋めていくことではありません。

2019年にケニアのメル県において、「革新的な医療アクセスのための設計図(Blueprint for Innovative Healthcare Access)」イニシアティブをスタートさせた後、インパクトを最大化するためには、プログラムの各段階で全パートナーが合意・実施する一貫した評価の仕組みが不可欠であることが明らかになりました。

タケダは2020年3月から、デューク大学、マッキンゼー・アンド・カンパニーと世界経済フォーラムが設立した非営利団体 Innovations in Healthcare (IiH) の Krishna Udayakumar 博士のチームと提携しています。AtMプログラムの設計・管理方法を紹介し、患者さんと医療体制全般へのインパクトを測定するため、「Access to Health Impact Framework Guidebook」を共同で作成しました。



低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的なプログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出するアプローチ

代表的な取り組み

評価の価値

実用的かつ実現可能で、汎用性があること。これが医療アクセスプログラムの設計・管理方法を紹介し、患者さんと医療体制全般へのインパクトを測定するための指針となる「健康へのアクセス ガイドブックと枠組み: Access to Health Impact Framework Guidebook」に私たちが求めた基本的な要件でした。

Udayakumar 博士と liH のチームは、このガイドブックを作成するにあたって、反復性と透明性の高いアプローチを採用しました。そして、製薬業界や実施パートナー、アカデミア、臨床医などの主要なオピニオンリーダーと共に、主題となる知見や既存の測定フレームワークを検討し、提案内容を検証しました。

メル県で Blueprint プログラムの一環として実施され、改良を重ねて実績のある評価モデルとなった「Access to Health Impact Framework Guidebook」はタケダのプログラムのインパクトを評価するための体系的かつ包括的なエンドツーエンドのアプローチです。

このガイドブックは、評価モデルの理論的知見のみならず、フレームワークを適用するための実用的かつ段階的なガイダンスも網羅しています。このガイドブックは公開されており、誰でも利用できます。

「Access to Health Impact Framework Guidebook」の目的は、実施者が自らの取り組みのインパクトを測定できるようにすることですが、プログラム設計の向上にも役立っています。私たちは、実績に裏打ちされた実用的なフレームワークをタケダの事業全般に取り入れ、Blueprint イニシアティブのように、より多くの組織やプログラムが恩恵を受けられるようになることを期待しています。

 **Access to Health Impact Framework Guidebook**

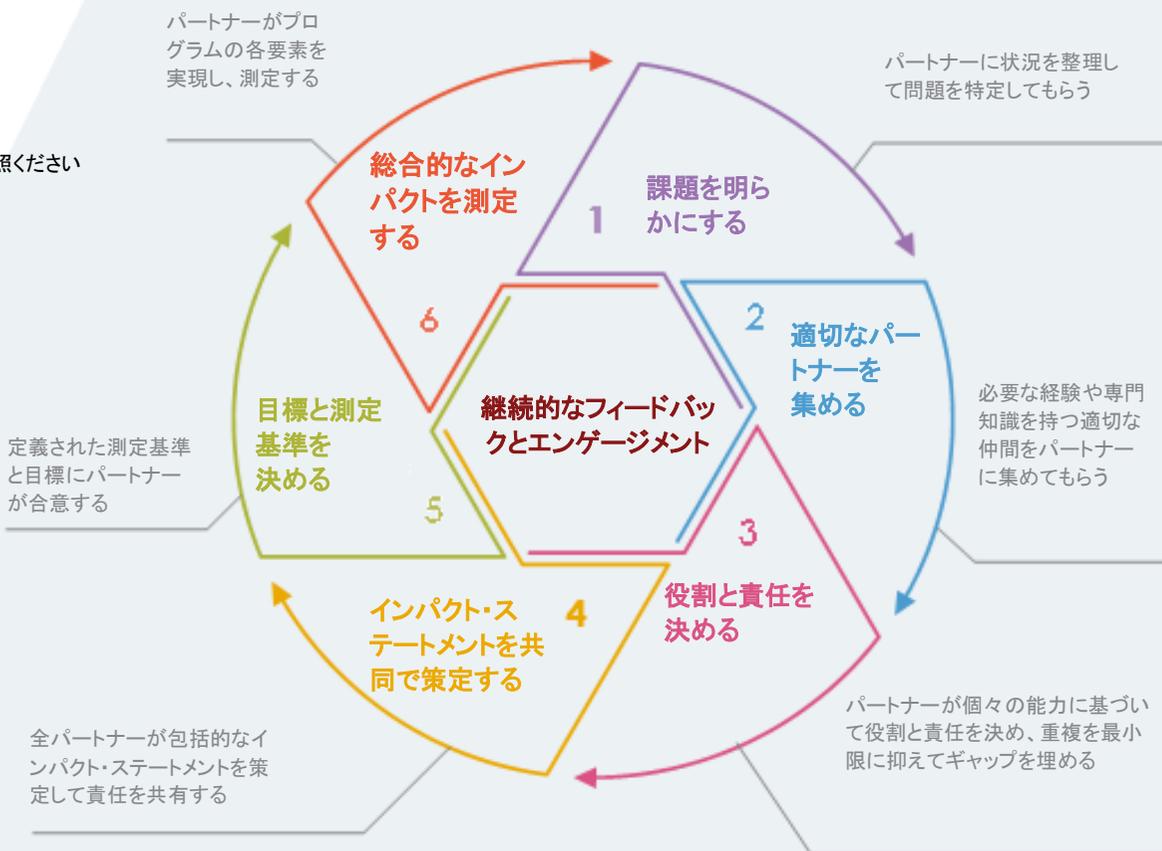
 メル県のパイロットプロジェクトの詳細については、25 ページをご参照ください

「このフレームワークを活用することで、的確な問いかけが可能となり、プログラム実施の最適化にあたって最も重要な指標を特定し、プログラムが生む好影響を持続的にモニターすることができます。つまり、評価フレームワークを通じて、プログラムを実施する組織は推進する術を得ることになるのです」

Krishna Udayakumar 博士
Innovations in Healthcare
エグゼクティブディレクター

健康へのアクセス ガイドブックと枠組み 「Access to Health Impact Framework Guidebook」

タケダの医薬品アクセス戦略を実現するには、包括的かつ協働的なアプローチが求められます。エコシステム全体にタケダがもたらす影響を測定すれば、進捗と影響力を持続させるための鍵となります。私たちは、デューク大学と共同で「Access to Health Impact Framework Guidebook」を開発しました。これは、継続的なフィードバックとエンゲージメントを通じて総合的な測定とアクションを可能にするためのツールです。このツールを活用すれば、個々の総和より大きなインパクトを創出することができます。



低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

代表的な取り組み

革新的な医療アクセスのための設計図:

Blueprint for Innovative Healthcare Access

アプローチ

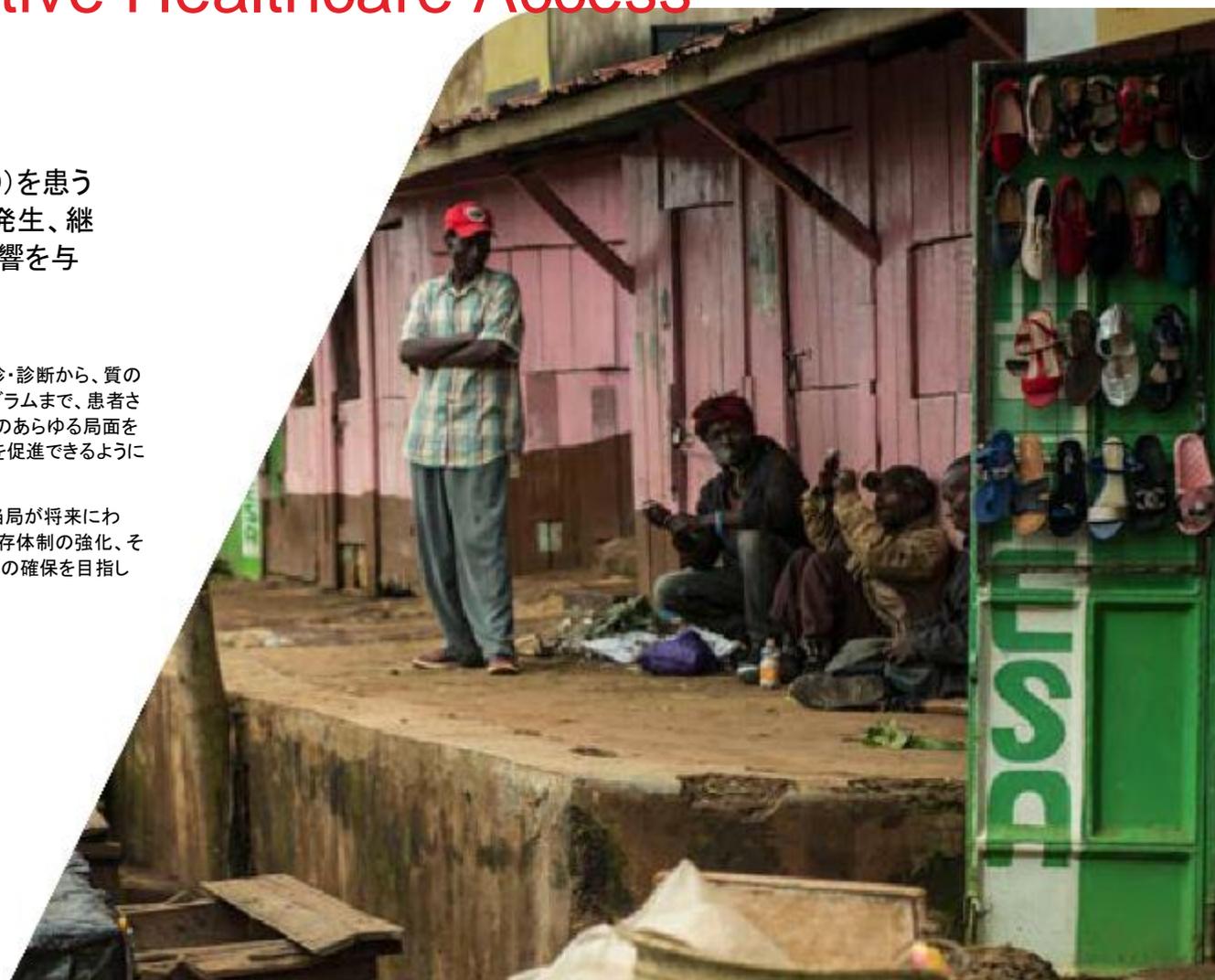
低中所得国の多くの患者さんにとって、非感染性疾患(NCD)を患うことによる収入の喪失、診断の遅れや誤診による合併症の発生、継続的な治療に伴う経済的負担の増加は、生活に著しい悪影響を与えます。

このような課題に取り組むべく、私たちは 2019 年に、革新的な医療アクセスのための設計図となる「Blueprint for Innovative Healthcare Access」を立ち上げました。これは、非感染性疾患が低中所得国の患者さんとその家族に与える影響に対処するために協働を促進する代表的な取り組みです。

この取り組みは当初から、パートナーと共同で地域に根ざした解決策を提供し、現地医療体制のニーズに応えることを目的としていました。官民・非営利の医療機関が協力して非感染性疾患に取り組む際に適用できるプログラムを、パートナーと共に開発しようと考えたのです。

このプログラムは疾患の予防・検診・診断から、質の高い治療の提供や患者支援プログラムまで、患者さんがたどるペイシェントジャーニーのあらゆる局面を通じてエコシステム規模での影響を促進できるように設計されています。

さらに、現地のパートナーや政府当局が将来にわたって活動を継続できるように、既存体制の強化、そして継続性と持続可能なインパクトの確保を目指しています。



低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

Blueprint イニシアティブ

ケニアのメル県でパイロットプロジェクトを実施

タケダの医薬品アクセス戦略の中核となる取り組みの1つ、Blueprint プログラムは、非感染性疾患（糖尿病、高血圧、がんなど）の影響を受ける人々の生存率とクオリティ・オブ・ライフ（QOL）の向上を目指し、2019年にケニアのメル県でスタートしました。

ケニア東部の農村地帯にある人口154万人のメル県では、体制面の格差により、昔から非感染性疾患（NCD）の治療やケアを受ける機会が限られていました。医学教育を受けた人材が不足しているため、NCDの患者さんは二次的合併症が進んでからようやく診断が見つかるのが常でした。しかも、地域の医療やインフラへの投資が慢性的に不足しており、地域の患者さんとその家族は重い経済的負担を強いられていました。

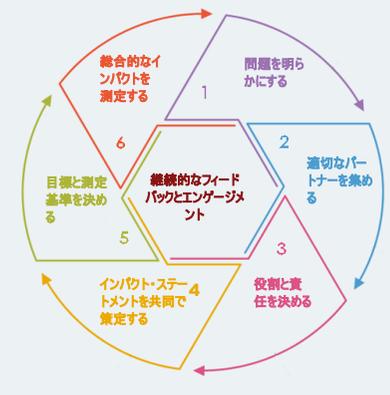
今回のパイロットプロジェクトは、現地の医療水準を向上させながら、アクセスを阻む障壁を取り除くことを目的に発足しました。イニシアティブや活動はリソースや専門知識、責任の共有を促進するように組み立てられ、強固なガバナンス、リーダーシップ、調整力によって実施されました。

パートナーである7つの患者団体からなるコンソーシアムのメンバーに集ってもらい、地域の医療環境を完全に理解し、ニーズと提供体制のギャップを特定するところから始まりました。その後、ペイシエントジャーニー（患者さんがたどる、疾患の認識、診断、治療、その後の生活に至るまでの道のり）のあらゆる局面において好影響を生み出すためのインパクト目標について、全パートナーの合意を得ました。

この取り組みの成果と影響を評価するにあたっては、「健康へのアクセス ガイドブックと枠組み: Access to Health Impact Framework Guidebook」を用いた体系的なアプローチを採用しました。さらに、このフレームワークに独自の測定と調整を加えてカスタマイズすることで、現地の実情に応じてワークプランを進化させ、継続的なエンゲージメントから学んだ知見を組み込みました。

このパイロットプロジェクトは2019年4月から2022年3月までの3年間にわたって実施され、長期的に質の高いケアを実現するために必要なスキル、知識、技術の移管に向けて、十分な時間とリソースを確保しました。

ケニアのメル県で実施したパイロットプロジェクトに「健康へのアクセス ガイドブックと枠組み: Access to Health Impact Framework Guidebook」を採用



「Access to Health Impact Framework Guidebook」の詳細については、24ページを参照

メル県のパイロット開始当初から、このプロジェクトではNCDの管理体制と患者生存率において具体的な持続可能な改善が見られました。以後、Blueprint プログラムはアフリカで他の4つのコミュニティにも導入されています。今日、タケダのパートナーは、このアプローチを他の地域や国にも展開できるようになりました。

プロジェクトパートナー



低所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

ケニア メル県パイロットプロジェクトの成果

インパクト目標と主な成果(2019~2021年)

成果	プロジェクト合計(2022年3月末まで)
トレーニングの受講者数: コミュニティヘルスポランテニア(CHV) + 医療従事者 (HCP)	3,303 ⁸
医療機関に紹介した患者数	10,130
検診を受けた人数	156,695
啓発したコミュニティメンバーの人数	365,470



医療提供体制を強化

- 2,500人以上⁸が糖尿病・高血圧・がんの予防・発見・治療および緩和ケアのトレーニングを受講
- メル県でがんに関するトレーニングを受けた医療従事者の数が、1人の腫瘍学コンサルタントから39人のHCPに拡大
- 787人の保健師とコミュニティメンバーが、医療用品の管理・サプライチェーン・アドボカシー・政策活動に関するトレーニングを受け、医療体制の管理とインフラを強化



非感染性疾病(NCD)の早期発見率を向上

15万人以上が高血圧と糖尿病の検診を受け、1万人近くを詳しい診断や治療のために医療機関に紹介



疾病の監視と研究を強化し、エビデンスに基づく意思決定を促進

人口集団ベースのがん登録と5つの病院ベースのがん登録を新たに整備



医療サービスのアクセスと利用を改善

緩和ケアの月平均訪問回数が319%増加



NCDに対するコミュニティの認識を向上

地域ボランテニアによるアウトリーチとアドボカシー活動の結果、地域調査の参加者の94%がNCDの早期スクリーニングの重要性を認識



NCD関連の県予算が増加

県予算を確保するための政策文書として、メル県初のNCD関連ワークプランの策定を促進・支援

⁸ 累計: 一人で複数のトレーニングに参加している場合があるため、実際の人数ではありません

低中所得国での進捗状況

持続可能な体制の整備

費用負担を軽減する革新的な
プログラム

政策立案者との連携

インパクトを創出する
アプローチ

代表的な取り組み

ナイジェリアにおける BIO Ventures for Global Health とのパートナーシップ

メル県のパイロットプロジェクトの成功を受けて、2021年にタケダはグローバル NPO である BIO Ventures for Global Health (BVGH) と提携し、アフリカで深刻化しているガン課題に取り組む官民パートナーシップ、Africa Access Initiative のもとで Blueprint のアプローチをナイジェリアに拡大しました。重点分野の1つは、アクセス障壁の要因にもかかわらず見過ごされがちな、現地サプライチェーンのパフォーマンスです。

流通網が非効率的であったり、貨物が適切に取り扱われていなかったり、現地のインフラが信頼性に欠けていたりすると、重要な医薬品が患者さんのもとに届くのが遅れる恐れがあります。

そこでタケダと BVGH は、41 品目の主要ながん治療薬の需要を理解するために調査を実施し、現地サプライチェーンにおける脆弱性（患者さんが予定どおりに医薬品を入手できない原因）を特定しました。

これは、医薬品の数量予測や医療機関の予算、港から患者さんの手元に届けるまでの物流など、きめ細かなデータに基づいた包括的なプロジェクトでした。

ナイジェリアのプロジェクトでは、ケニアで開発された包括的なアプローチを参考にし、医療従事者の診断能力における不足要素、ギャップを特定し、がんと希少疾患に関する能力向上トレーニングを実施することで必要な知識を身につける支援をしました。

「ナイジェリアの患者さんは、基本的ながん治療薬を入手することができず、医療体制の利用法に関する知識も不足しています。なかには、乏しい資金でまかなうために「ハーフカクテル」療法を利用するなど、配給に頼る人さえいます。（中略）この国には大きな可能性があります。私は、ナイジェリアが再び繁栄するように、より多くの患者さんが知識を得て治療を受けられるようにサポートしたいと思っています」

Denise Ejoh 博士
Cormode Cancer Foundation CEO
がんサバイバー

インパクト

2020～2022



1,600 人以上

トレーニングを受講した医療従事者の数

ナイジェリアの人口の

約 16%

に現地の NGO が患者向け資料やラジオ放送を通じてリーチ





現地の声

- 30 患者さんの声
- 32 医師の声
- 34 戦略的パートナーシップ
- 36 パートナーの声
- 38 アクセス向上に取り組む従業員の声

インパクトの創出と 生活の向上

タケダのプログラムや活動を通じていかに患者さんの生活や地域社会に有意義な変化をもたらせるかによってインパクトの真価が問われます。

パートナーの多様なネットワークと連携し、私たちは社内外問わず、官民横断でその努力を重ねています。

患者さんの声

医師の声

戦略的パートナーシップ

パートナーの声

アクセス向上に取り組む従業員の声

患者さんの声

治療を届け医薬品の 費用負担を軽減

Jho-Ann Pulgo さんは、2018 年にイスラエルで高齢な患者さんを担当する介護士として働いていたとき、初めてステージ IV の肺がんと診断されました。人の介護をして生きてきた彼女にとって、これは青天の霹靂でした。

がんが判明した当初はどうすればいいかわからず、最初の数週間は母国から遠く離れた地で助けを求めて苦勞しました。

その後、家族の助けを得て帰国し、マニラで治療することになりました。さまざまな医師に診てもらい、化学療法から放射線治療まで、いろいろな治療を受けました。

2年間の治療を経た 2020 年、首のしこりがまだ残っていたので、主治医から 2 度目の生検を勧められました。その結果、診断された病名はホジキンリンパ腫。聞いたこともない珍しいタイプのがんでした。

ペイシェントジャーニー（健康増進や予防から、診断、治療、継続的なケアまで、患者さんがたどる過程）全体にわたる医薬品アクセスの障壁となる問題への取り組み



啓発



検診



診断



治療



アフターケア

ホジキンリンパ腫をはじめとする希少疾患の認知度を向上

費用負担を抑えた治療計画と医薬品によって回復過程をサポート



患者さんの声

医師の声

戦略的パートナーシップ

パートナーの声

アクセス向上に取り組む従業員の声

「私が回復できたのは、主治医が私の状況を理解し、私には支払いが難しい必要な治療薬へアクセスする方法を見つけてくれたおかげでした」

転機が訪れたのは2021年、タケダのホジキンリンパ腫患者向けPAPに登録する機会を主治医が見つけてくれたときでした。貯金が少ない私は、16回の治療のうち1回分しか支払うことができなかったのですが、主治医の助けを借りてオンラインでプログラムに申し込むと、残りの治療費は全額負担してもらえることになりました。これでようやく、治療に専念できたのです。

今は13回の治療を終え、体調も順調に回復しています。最近自分自身を取り戻し、生きていることを実感しており、家族や主治医、タケダに心から感謝しています。私が回復できたのは、主治医が私の状況を理解し、私には支払いが難しい必要な治療薬へアクセスする方法を見つけてくれたおかげでした。こんなプログラムがあるなんて想像もしていなかったので、見つけることができたのは本当に幸運です。家族、特に幼い4人の姪と過ごす時間が増え、彼女たちの成長を見守ることができるなんて、夢にも思いませんでした。

私のような立場にある人の多くは、このようながんの種類が存在し、適切な治療を受ければ治るということをまだ知らないのではないのでしょうか。ホジキンリンパ腫をはじめとする希少疾患の認知度を高め、多くの人々が私のようにすばらしいサポートを受けられるように支援する方法が見つかることを願っています。

Jho-Ann Pulgoさんは、2018年に肺がんと診断された後フィリピンへ帰国。2022年9月に、タケダの医薬品アクセスに関してお話を伺いました。



患者さんの声

医師の声

戦略的パートナーシップ

パートナーの声

アクセス向上に取り組む従業員の声

医師の声

医薬品アクセスへの 取り組み

7,000以上の島々があるフィリピンでは、先進的な治療や病院が首都マニラに集中しているため、患者さんに医療を提供することが簡単ではありません。治療の選択肢や公的な医療保険に関する認知度も低いため、さらに難しい状況が生じています。

がん患者の予後を改善するには、早期診断が不可欠です。これは、がん専門医でフィリピン総合病院がん研究所の所長を務める Jorge G. Ignacio 博士が特に重視している分野です。博士は「医薬品アクセスは普遍的かつ便利で、必要とするすべての患者さんのもとに薬が届く体制であるべきだ」と考えています。

「医薬品アクセスは普遍的かつ便利で、必要とするすべての患者さんのもとに薬が届く体制であるべきだ」

フィリピンで医薬品へのアクセスを阻む最大の障壁は何でしょうか？

フィリピンでは、医薬品を入手できるかどうかより費用を払えるかどうかの問題になります。

ホジキンリンパ腫を例に挙げましょう。以前から、費用面の問題で、ホジキンリンパ腫の治療には他の疾患の治療薬を用いるしかありませんでした。ホジキンリンパ腫の治療薬がないからではなく、費用面と公的な医療保険の対象になっていないためまったく手が届かないのです。



患者さんの声

医師の声

戦略的パートナーシップ

パートナーの声

アクセス向上に取り組む従業員の声

フィリピンで医薬品アクセスを向上するには、どのような取り組みが必要でしょうか？

協調的な取り組みが必要になるでしょう。企業が果たすべき役割は大きいと思います。

医薬品を入手できたとしても、患者さんはその費用を払えるのでしょうか？ タケダがフィリピンでも展開している PAPのおかげで、私はどのような状況にある患者さんでも最先端の医薬品へのアクセスを支援できます。また、再発の可能性を低減するために、最後まで治療を受けてもらうこともできます。

ある患者さんは、ホジキンリンパ腫の治療を6回受けたことで寛解に至りました。しかし、この青年は再発歴があるため、全16回の治療を最後まで終了して完全寛解を目指したいと考えました。

医師がこのような判断を下したことを信頼し、完全寛解後も治療の延長に同意してくれるタケダのような会社はめったにありません。

費用負担以外に、どのような課題がありますか？

ご存じのように、がんを治癒させるには早期診断が重要です。

マニラには専門医や病院が集中していますが、フィリピン全土でそうとは限りません。そのため、多くの患者さんが適切な専門医をなかなか見つけられず、結果として数ヶ月から数年も治療が遅れることも少なくありません。がん研究所でさえ、日々来院される患者さんをすべて診るのは大変なので、患者さんにとっては PAP の承認スピードがより重要になります。

医薬品アクセスへの取り組みを成功させる上で最も重要なことは何だと思われますか？

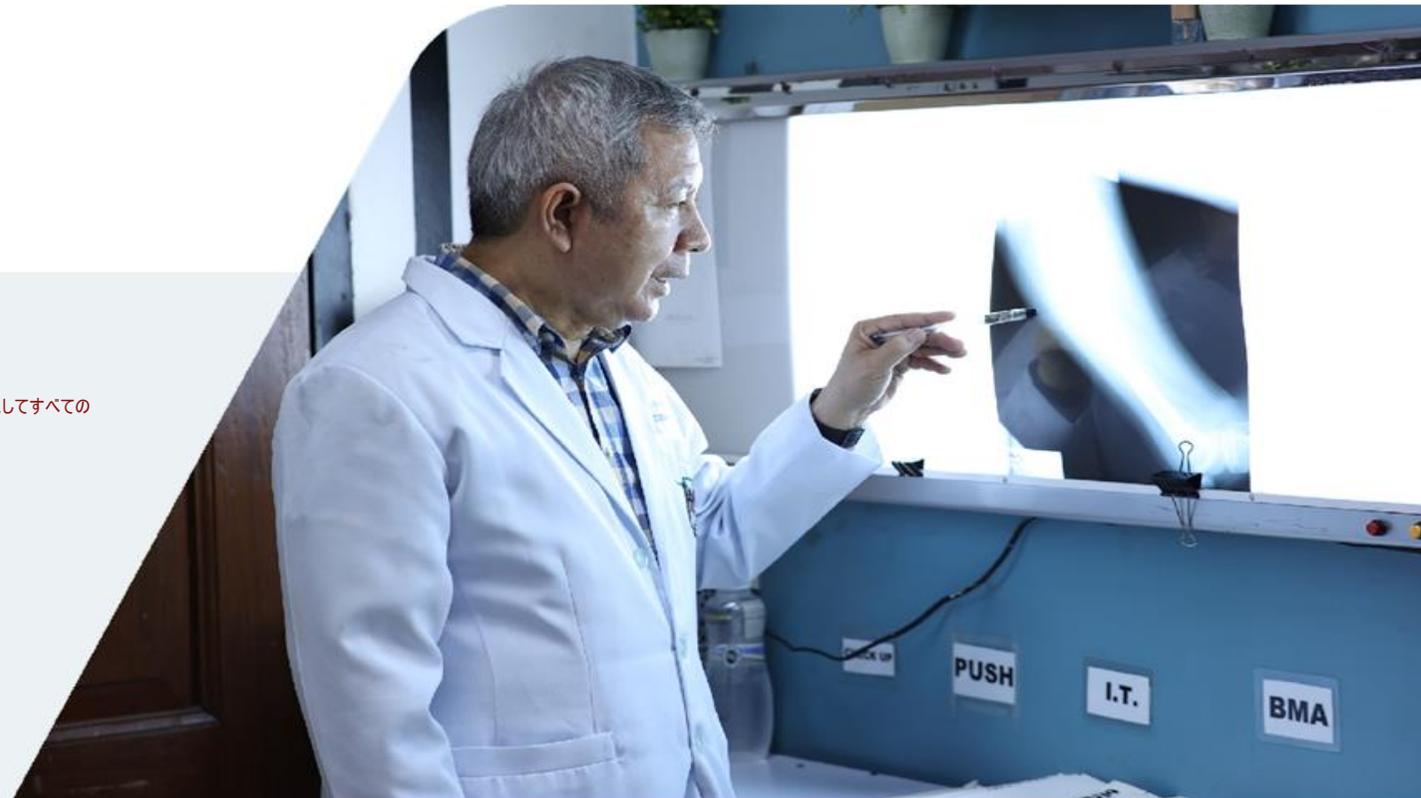
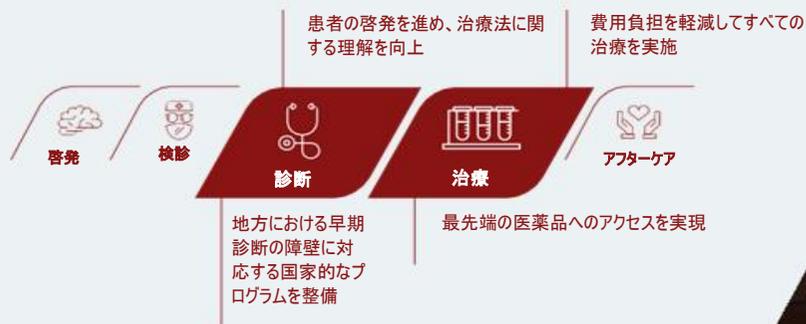
個別の状況に対応でき、地域に根差し、すぐに治療にアクセスできることが必要だと思います。国の広さや国土が島からなるフィリピンでは、患者さんが治療から隔たり、治療へのアクセスが難しいのです。だからこそ、地域の課題に対応する国家的なプログラムを検討する必要があります。まずはトレーニングから始めて、患者さんへの治療法の選択肢を理解し、地域で迅速に治療法を決定できるようにしなければなりません。

今後の展望やどんなところに期待をされているかお聞かせください。

今後も私たち全員が協力して、より多くのプログラムを整備し、より多くの医薬品を活用して、より多くの患者さんの症状を治療していけるよう、プログラムの継続と拡大を期待しています。まさに命を救い、人々の暮らしを豊かにする取り組みです。

2022年8月に、Jorge G. Ignacio 博士から、フィリピンにおけるタケダの医薬品アクセスに関してお話を伺いました。

患者さんがたどる全過程でアクセス障壁に対処



患者さんの声

医師の声

戦略的パートナーシップ

パートナーの声

アクセス向上に取り組む従業員の声

戦略的 パートナーシップ

タケダは戦略的かつ地域に根差したアプローチによってパートナーシップを構築しています。

地域の医療体制や患者さんに最も貢献できる技術を持ち、地域の状況に対する知識、能力を備えた組織との連携を積極的に進めています。

私たちは、アクセスを阻む障害に包括的かつ長期的に対処できるよう、世界や地域で活躍する医療の専門家やアカデミア、開発機関、NGO、国や地域の行政機関、医療従事者、患者団体、民間組織など、幅広いステークホルダーとの関係を引き続き強化しています。



患者さんの声

医師の声

戦略的パートナーシップ

パートナーの声

アクセス向上に取り組む従業員の声

パートナーシップの事例



がんや希少疾患の治療 改善に向けた協力体制



- BIO Ventures for Global Health (BVGH)と緊密に連携し、ナイジェリアにおけるがんや希少疾患の患者さんの予後の改善を目指しています。
- 革新的な医療アクセスのための設計図(Blueprint for Innovative Healthcare Access プログラム)では、保健当局などをはじめとするパートナーと共同で医療体制におけるギャップを特定し、検査や生検を行うために現地の医師にとって不可欠な指導をサポートしました。
- 同プログラムは、医薬品を確実に提供し、患者さんの治療過程をトータルにサポートするために、ナイジェリアにおけるサプライチェーンのインフラ強化にも力を入れています。

「本プログラムの初年度から、私たちはがん患者さんの生活に大きな変化をもたらしています。これまでに、1,600人以上の医療従事者にトレーニングを実施し、検診や診断の能力を向上させ、地元のメディアやコミュニティリーダーを通じて全国的にがんに対する啓発をしています。このような成果を実現できたのは、有益な官民パートナーシップが地域において構築されたおかげです」

Jennifer Dent
BVGH CEO

患者さんの声

医師の声

戦略的パートナーシップ

パートナーの声

アクセス向上に取り組む従業員の声

パートナーの声 Axios Internationalの インタビュー



多くの発展途上国において医療へのアクセスを阻む最大の障壁の1つが、患者さんが必要な医薬品を入手するために支払えるかどうかです。

この課題に対処するため、私たちは2017年に患者支援プログラム(PAP)を立ち上げました。これは、単に医薬品にアクセスできるだけでなく、個人の状況に配慮した方法でアクセスできるよう費用を負担する仕組みです。

医薬品アクセスに特化した独立系パートナーの Axios International は、タケダが地域に根ざした包括的な方法で PAP を提供すべくグローバルで連携している多くの組織の1つです。

今回、Axios の共同創業者兼 CEO の Joseph Saba 氏とグローバルコンサルティング担当シニアディレクターの Roshel Jayasundera 氏へのインタビューを実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大による影響への対応から地域の状況に合わせたアプローチまで、タケダとのパートナーシップが持つ重要な役割と医薬品アクセスの推進についてお考えを伺いました。

🔍 PAP の詳細については、17 ページを参照

患者さんの声

医師の声

戦略的パートナーシップ

パートナーの声

アクセス向上に取り組む従業員の声

医薬品アクセスとはどういうことでしょうか？なぜ重要なのでしょうか？

A: 医薬品アクセスには「医薬品」という言葉が含まれていますが、そこだけに注目すべきではありません。私たちにとって重要なのは、もっと大局的に患者さんがたどる全過程をサポートし、病院や医療施設以外のサポートが抜け落ちてしまうような過程について考えることです。

25年前、医薬品アクセスとは入手可能性、つまり薬の入った箱が物理的に地域社会に届くことを意味していました。今では入手可能性が必ずしもアクセスと捉えられるのではなく、患者さんが必要な治療を最後まで継続でき、その効果を得られることをアクセスと捉えています。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、医療提供体制に依然としてギャップがあること、そして医薬品アクセスの実現には医療制度の枠を超えた幅広いエコシステム全体での取り組みが必要であることが明らかになりました。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、患者さんのアクセス向上に向けたタケダとの共同アプローチはどのように変化しましたか？

A: 何よりも、持続可能な状態で長期にわたり患者さんの治療結果を出し続けるためには、エコシステム全体へのアプローチが求められ、どんな組織であっても単独でこれを実現できないことが新型コロナウイルスの感染拡大で浮き彫りになりました。事実上一夜にして、新型コロナウイルスによって各国は突如として公衆衛生上の緊急事態に陥り、病院や診療所は閉鎖され、通常の治療も中断されました。

理論上は医薬品が入手できるにもかかわらず、医薬品を届けるために必要なインフラやシステムが機能せず、患者さんは突然必要な治療を受けることができなくなりました。

そこで私たちは民間病院との協議を加速し、数週間で、PAPの患者さんが治療を受けられるようにしました。また、各患者さんの状況に応じて費用負担を行うケースバイケースの対応を維持しながら、最適な診察料についても交渉しました。

医薬品アクセスへの取り組みを持続可能なものにするには何が必要でしょうか？パートナーシップによって、この課題にどう対処できますか？

A: 持続可能な医薬品アクセスを実現するには、長期的な視野で解決にむけて取り組み、患者さんを中心に考える姿勢を組織全体およびその中核となる事業戦略に組み込む必要があります。タケダは、それを実行し、組織のトップから始めています。

タケダのグローバル戦略の原動力が医薬品アクセスであるという事実がチームメンバーの考え方を形成し、私たちはタケダとやり取りするたびに患者さん中心主義が浸透していることを常に実感しています。タケダの従業員は義務だからやるのではなく、正しいことだからやるという意識があります。

これを共通認識として持っていることが、さまざまな共同プロジェクトの出発点になっています。私たちの取り組みで特に重要なのは、好奇心を持ち、患者さんのために絶えず革新を続け、「この地域で他に何をすればギャップを埋めることができるか？」と自問することです。

たゆまず学び、変化する状況に適応しようとする意志や意欲が、私たちのパートナーシップのあり方を決定づける特徴です。

医薬品アクセスの将来像、重点的に取り組むべき点についてどうお考えですか？

A: 患者さんに提供する治療薬、医療、サポートに相互関連性がないと、医療体制が有事の際に脆弱になり、最も必要なときに患者さんの医療を継続できなくなります。これは、現在においても緊急性の高い課題です。

分野横断的に連携して医薬品アクセスをビジネスモデルに組み込むことの重要性を教育や啓発を通じてエコシステム全体に周知させることが、最終的に私たちが達成したい目標です。

そのためにはパラダイムシフトが必要です。多くの企業はまだまだ医薬品アクセスをCSRの一環だと考えていますが、実際のところ、インパクトを創出するにはもっと踏み込んだ取り組みが必要なのです。



患者さんの声

医師の声

戦略的パートナーシップ

パートナーの声

アクセス向上に取り組む従業員の声

アクセス向上に取り組む 従業員の声

私たちの行動指針であるタケダイズムには「誠実：公正、正直、不屈」という価値観があります。

タケダの価値観により、私たちは多様な視点や強み、専門知識をチーム横断的に活用し、大きな目標を実現することができます。私たちは「患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、社会的評価を向上させ、事業を発展させる」という重要な行動指針の順番に従って、意思決定を行っています。

このような指針があるからこそ、人々はタケダを選ぶとともに、タケダと成長しています。現状に甘んじることなく、「患者さんのためにさらに何ができるか」を常に自問しています。

私たちは、医薬品アクセスの担当部門を通じて、組織の強みと総力を結集し、この問いに対する答えを追求してきました。

その一環として進めているのが「医薬品アクセス・アンバサダープログラム」。

この取り組みは、従業員が AtM の理解を深める業務に参加し、医薬品アクセスに対する考え方を組織全体に浸透させるための機会を設けるべく、2021 年に発足したプログラムです。

このプログラムに参加する従業員は、従来の職務と並行して、医薬品アクセスの提供における課題を探求する任務を定められた期間中遂行します。

グローバルヘルスと AtM への強い思いに突き動かされ、私は、あらためてグローバルヘルス政策の修士号を取得しました。しかし、医薬品アクセスの課題を理解し、克服するために実地経験を積みたいと考えていたのです。アンバサダープログラムでは、タケダの AtM アプローチの背景にある考え方や行動を掘り下げることができました。

私はアンバサダーとして活動する中で、タケダの AtM アプローチがある国でのプログラム開発に与えるインパクトや、アクセスが困難な患者さんにもたらす利益をリアルタイムで実感しました。また、タケダがどのように地域のパートナーと連携し、持続可能な体制整備につながる効果的なプログラムを設計しているかを深く理解することもできました。

多様なステークホルダーが関わっているため、最初から期待値や仕事の進め方について関係者間でコミュニケーションを取り、足並みを揃えることが最も重要な第一歩であることも学びました。

Nicole Underwood

勤務地：ロンドン（英国）

AtM アンバサダープログラム 2021

目標：医薬品アクセスプログラムを実際に体験し、経済や医療体制が発展途上にある国々において医薬品アクセスの課題をどのように克服するか理解する

主な学び

- 多様なステークホルダーが関わるプログラムを成功させるには、プログラムの目標と意図するインパクトを全員が明確に理解し、足並みを揃えて見通しを共有することが重要
- プログラムのインパクトを総合的に理解するには、定量的・定性的なフィードバックをもたらす「測定」が不可欠

印象に残ったのは「測定」というテーマです。プログラム目標の明確化から進捗やインパクトの追跡まで、プログラムが患者さんにもたらす価値を総合的に把握する上で最も重要なのは「効果測定」だと思います。

アンバサダーに就任したことで、タケダのプログラムとそのインパクトを身近に感じるようになりました。私は、パートナーとともに患者さんがたどる治療の全過程をサポートするタケダのアプローチのすばらしさを、これまで以上に確信しています。タケダが現地にもたらしめているインパクトが追い風となって、業界全体がアクセスプログラムの開発に同様の投資を進めてくれることを期待しています。



患者さんの声

医師の声

戦略的パートナーシップ

パートナーの声

アクセス向上に取り組む従業員の声

Randa Adel

勤務地:カイロ(エジプト)

AtM アンバサダープログラム 2022

目標:タケダがエジプト以外の国で

展開する医療体制強化戦略・活動を学ぶ

私は、特に低中所得国に重点を置いたタケダの医療体制強化プログラムと活動について見識を深めるために、アンバサダープログラムに参加しました。また、ちょうど自分の能力を伸ばし、学びの幅を広げる機会も求めていたところでした。

アンバサダープログラムで最も充実している経験の1つは、現在担当している低中所得国で効果的なCSRプログラムを推進するためのプレイブック作成です。私には2つの目的があります。1つは、地域の運営会社の取り組みと貴重な貢献を評価すること。

もう1つは、タケダの企業理念に定められた医薬品アクセス関連の優先事項を反映したプレイブックを作成することです。

私はアンバサダーとしての活動を通じて、タケダでAtM、CSR、パートナーシップ戦略を推進するグローバルリーダーの方々から多大なご指導を受け、アクセス戦略の構築に関する知識や経験を惜しみなく、辛抱強く教えていただき多くを学びました。そのおかげで、グローバル化した世界において、局所的な取り組みが他の地域にもポジティブで持続可能な社会的価値をもたらすという全体像に気が付くことができました。



主な学び

- 医薬品アクセスへの取り組みは対象地域以外にもインパクトをもたらす
- 医薬品アクセスの拡大を図るタケダのアプローチは、タケダの総合的な企業戦略に根ざしている

Ahmed Abou Khatwa

勤務地:ドバイ(UAE)

AtM アンバサダープログラム 2022

目標:医薬の枠を超えて知識を広げ、実社会で経験を積む

低中所得国をはじめとするほぼすべての国で、希少疾患により患者さんが経験する課題は疾患の認知、診断、費用負担、治療に至るまで多岐にわたっています。発展途上国では十分な治療を受けていない希少疾患患者さんの割合が非常に高いため、私は希少疾患患者さんのアクセスを考える上で、費用負担の問題にばかりに目を向けていました。

しかし、アンバサダーに就任したことで、医薬品アクセスの問題をより深く掘り下げることができるようになりました。最初に気が付いたのは、国の経済状況に関わらず、どんな国の患者さんにおいてもアクセスを阻む費用負担の障壁は存在するということです。タケダでは、地域ではなく患者さんのニーズに基づいてAtMの取り組みを進めています。希少疾患の患者さんのアクセスを改善するためには、ハイブリッドな資金調達モデル、価値に基づく医療、官民パートナーシップを取り入れた包括かつ総合的でひたむきなアプローチが必要であることを、アンバサダーとしての活動を通して学びました。AtM アンバサダープログラムに参加したことで、社内各所のステークホルダーと協力し、各国の患者さんのニーズに応じて持続可能な希少疾患患者さんの支援ソリューションを設計できるようになりました。



主な学び

- アクセス向上に向けて個別のニーズに応じたソリューションを設計する中で、さまざまなステークホルダーの視点や経験を知ることができた
- 費用負担を含むアクセス障壁は、国の経済状況にかかわらず、あらゆる人々に影響を及ぼす

希少疾患の認知度向上のために、タケダが主導して業界や地域のさまざまなパートナーとの共同プロジェクトが進んでいることも大きな励みになっています。AtM アンバサダーとして活動する中で、希少疾患領域を中心に医薬品アクセスの啓発を推進できればと願っています。



未来に向けて 進化を続ける

たゆまぬ成長と革新を追求するタケダの文化が、違いを生み出す鍵となります。進化を続けるタケダの AtM 戦略が、次世代のために、これからも医療のグローバルな進歩を推進していきます。

まとめ

41 進捗のまとめ

進捗のまとめ

進捗のまとめ

グロース&エマージング マーケッツ担当 プレジデントからのメッセージ

新型コロナウイルスの感染拡大によって、医療へのアクセスは世界的な課題の最前線になりました。この2年間で、医療サービスへのアクセスを改善するために全ステークホルダーが取り組みを強化する必要があることが明らかになりました。

私たちは、アクセス向上への道のりが容易ではないことを認識しなければなりません。新型コロナウイルスの感染拡大からの回復という当面の課題のみならず、気候変動や不安定な世界経済の影響も強まることが予想されます。十分な医療を受けられない人々や不平等に扱われている人々に及ぶ影響は急激に拡大するでしょう。

タケダにとって、医薬品アクセスの改善は、患者さんや事業を展開する市場との関係を築くための主要な原動力となっています。

新型コロナウイルスの感染拡大を経て、私たちの決意はさらに強くなり、あらゆる機会を通じてアクセスの向上を図っています。

社内では、Access to Medicines オフィスに「センター・オブ・エクセレンス」モデルを導入するという素晴らしい新展開もありました。これによって、タケダは戦略、ガバナンス、サステナビリティ、研究開発、CSRなどのあらゆる業務を統合し、相乗効果を活かすことで、患者さんにより大きなインパクトをもたらせるようになりました。

「タケダにとって、医薬品アクセスの改善は、患者さんや事業を展開する市場との関係を築くための主要な原動力となっています」



進捗のまとめ

「私たちは、患者さんがたどる全過程を大局的かつ包括的にとらえ、各市場の状況を踏まえて、それぞれのニーズに応じた戦略を立てています」

このレポートでお伝えしたいのは、医薬品アクセスへの取り組みこそがタケダの特色だという点です。これは製品に始まり、製品に終わる取り組みではありません。私たちは、患者さんがたどる全過程を大局的かつ包括的にとらえ、各市場の状況を踏まえて、それぞれのニーズに応じた戦略を立てています。タケダが適切なパートナーシップの構築を重視しているのも、そのためです。

私たちは、低中所得国の医療システム強化を支援する一方で、短期的には、より差し迫った障壁である患者さんの費用負担の問題にも引き続き取り組んでいます。段階的な価格設定や PAP などを通じて費用負担を軽減する革新的なプログラムは、これまで治療費を賅うことができなかった深刻な病状の患者さんに医薬品へのアクセスを提供する上で、非常に重要な役割を担っています。

私たちは新型コロナウイルスの感染拡大の最中も、医薬品アクセスプログラムが最も必要とされているコミュニティで継続できるように、取り組みを強化してきました。大変ありがたいことに、パートナーから継続的なご支援をいただき、患者さんを一人も取り残さないための取り組みも進めています。

私たちは対処すべき課題を痛感しつつも、パートナーの協力があれば、より多くの患者さんとそのご家族のためにアクセスを拡大し、提供していくことができるという明るい見通しを抱いています。これからもグローバルにパートナーシップを拡大し、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献するために、タケダ独自の取り組みを推進していきたいと思えます。

Renata Campos

タケダ グロース&エマージング マーケッツ
ビジネス ユニット担当プレジデント





医薬品アクセスプログレスレポート 2022

C-ANPROM/GEM/CORP/0015

2022年10月